

平成 25 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組
平成 26 年 2 月 26 日 (水) 17:20~17:30 (塩竈一常 GET KING!!)
(再放送: 3 月 2 日 (日) 9:10~9:20 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 2 回放送 一関市医師会 副会長

中野内科循環器科クリニック院長 中野淳平先生

(聞き手: 塩竈一常)

塩竈 さて、本日もスタジオにはゲストの方をお迎えしました。一関市医師会副会長、そして中野内科循環器科クリニック院長の中野淳平先生にお越しいただきました。中野先生よろしくお願いいいたします。

中野 どうぞ、よろしくお願いいいたします。

塩竈 先々週から始まりましたこのコーナーなんですけれども、地域医療の体制を充実させるために私達市民も積極的にその動き、その連携に関わって行かなければならないというお話を、先々週は長澤先生に色々とお話を伺ったんですけれども、中野先生にまず一関市医師会というのは、どういった団体なのかというところを説明していただきたいと思います。まずは医師会の構成ですが、会員の方は何人いらっしゃるのでしょうか。

中野 平成 26 年 2 月現在、171 名全部でいます。これは、多いか少ないかと申しますと人口 10 万人あたりの医師数で見ると、全国平均よりも約 50 人も少ない状態なんです。

塩竈 そうなんですか。全国的に見ていくと、お医者さんの数というのは、年々減っているとニュースで聞いたことがあるのですが、実際はどうなのでしょう。

中野 ご多分にもれず、都市部と地方の格差が増えてきて、全国的に医師数は少しずつ増えているのですが、一関市では若干減少の傾向にあるのです。

塩竈 そうなのですね。医師会の所属されてい

る内訳というのはどういう感じなのでしょうか。

中野 病院に勤務されている先生と、診療所を開業されている先生が約半数ずつ、勤務されている先生が若干多いという構成になっております。

塩竈 病院にかかる皆さんからすると、本当に先生方がお忙しく働いている姿を拝見している訳ですが、特に先生方の業務内容はどうなっているのでしょうか。

中野 私達のように、診療所を開業している医師は通常、日常の診療が日中ございますね。その他に、当番を決めてやる事業なのですが、小児・成人夜間救急というのを 6 時から 8 時まで夕方行われます。後は、休日、日曜や祝日に当番医を朝の 9 時から 5 時まで。それぞれの先生によって違いますけれども、空いている時間に往診をされたり、看護学校の講義をしまして、地域で将来働いていただく看護師の育成だったり、後は幼児の予防接種、学校医や各企業の産業医だとか、様々多岐にわたって色々仕事をしております。

塩竈 普段、風邪をひいたりしてお医者さんにかかる場合があるんですけども、向かい合っている仕事だけでなく、こんなに多くの仕事があるんですね。

中野 日常の診療だけでなく、色々な所で医学的に関われることは、色々仕事をしているということをぜひ分かっていただきたいと思っております。

塩竈 今、世の中を見ていると高齢化社会ということで、お医者さんにかかる人数は増え続けていると思うんですね。先程のお話では、全国的に医師の数は増えているけれども、一関の街では若干減少気味であるとのことでした。そうなってくると、お医者さんの数が限られている、医療資源が限られてくるということに繋がる訳ですよ。

中野 これは、全国的に言われていることで、限られた医療資源というものを上手に利用していただきたいと。

塩竈 今日はこの番組を通じて、私達の街にある限られたお医者さんの数や、医療資源をどう効率的に活用していくか、先生と一緒に学ばせていただきたいと思います。まずは、病院の受診の仕方、救急外来への受診の仕方ですね。私達が病気になった時に、病院にどのように関わっていけば良いか教えていただきたいと思いません。

中野 一般に病院というところは、入院、あるいはより専門的な医療や検査を行う所ですね。診療所というのは、外来治療を中心として各個人の特性に合わせた医療をしております。病院・診療所というのは、役割分担が少し違ってきます。

塩竈 よく「かかりつけのお医者さん」という言い方をしますが、その場合は診療所のお医者さんの場合がそれに当たるのでしょうか。

中野 そうですね。かかりつけ医という意味はですね、普段から風邪をひいたとか、血圧が高いとか、自分の健康状態をよく把握して貰う先生をぜひ作っていただきたいと思います。それで、そういう先生にかかっていたら、より高度な医療が必要な場合は病院に紹介すると。自分の健康管理をする基地というか、基本となるかかりつけ医を作っていただくと効率良く病院にかかっていただけだと思います。

塩竈 幼い時からずっと同じ病院に通っている方も多いと思いますが、その方のデータや健

康遍歴が色々まとまっている訳ですよ。

中野 かかりつけ医の先生ですと、この患者さんは風邪をひくと咳が長引きやすいとか、こういう薬が合わない場合があるとか細かいところまでよく把握していただけるので、病気の度に色々な病院を受診しますとやはり効率が良くない。

塩竈 なるほど。効率良く病気の回復に向かっていくには、まずは普段からかかりつけのお医者さんを持っておく。それから、より専門的な医療を受けるために紹介をしていただく流れの方が効率的ですね。

中野 やはり病院も大変忙しい状況ですので、できるだけ事前にかかりつけ医の先生の情報があると何が問題なのかを把握しやすいですね。そうでなくて、突然病院を受診されますと、また一から色々なことをやって行かなければいけないので、非常に時間もかかりますし、効率も良くないということになりますね。

塩竈 こういった病院・診療所の受診の仕方なんですけれども、何処にどういう病院・診療所があるのか、かかりつけのお医者さんにかかっている方はご存知かと思いますが、あらためて、かかりつけガイドブックという物を一関市では作っておりまして、基本的なことは書かれているので、ぜひ皆さん対応に困った時は、ご覧になっていただきたいと思います。先程、医師会の業務内容、病院と診療所の業務内容についてお話を伺ったんですが、夜間救急ですとか、休日当番医という形で緊急の対応を行っているというお話があったんですが、こういった現状について続いてお話を伺って行きたいと思います。対応されている先生方は何歳くらいなのでしょう。

中野 これも、非常に残念なんですけれども、今現在、夜間救急当番医や休日当番医を行っている先生方の平均年齢は61.8歳なんです。本当に還暦を過ぎた状況になるのです。どうしても昼間、朝から夕方まで診療されたそれ以外に、こうやって夜間・休日仕事をされますので、な

かなか厳しい状況にはなっております。

塩竈 それに加えて、先程お話のあった往診だとか、病院の看護師さんを育てるお仕事だったりとか、学校や企業のお医者さんの役割を果たしていたりだとか、医師会の中での会議もある訳ですよ。

中野 そうですね。

塩竈 年齢が 61.8 歳という医師の方々に色々な負担や重責が今あるという状況なのですね。この様な一関市内の医療の現状をお伺いしますと、利用する側も上手に医療機関にかかることが大事になってきますね。

中野 そうですね。昼間、朝から晩まで仕事をして、さらに夜も救急で対応するというのは、年齢が高齢になるほど先生方も大変ですので、そこで効率良くかかっていることが、非常に大事に思います。

塩竈 患者さん自身の蓄積されているデータが、直接先生の元に渡ると診断もスピーディーに進みますよね。

中野 この患者さんは、アレルギー性の疾患を持っていらっしゃるかどうか、風邪で来られても普段風邪以外の病気があるかとか、分かっている患者さんですと非常に対応が早く進みますし、全く分からない患者さんが来られると、色々な可能性を考えた診療になりますから、ぜひ情報を持っていただいて夜間等救急で行かれる場合はお薬手帳等、自分にまつわる情報を持って受診されることが大事だと思います。

塩竈 いざ病気になった時にも、頼りになる効率的な医療を受けられるメリットもありますし、例えばこれから先、高齢化が進んで行きますと在宅医療等がこれから出てくるかもしれませんが、先々の相談等もかかりつけの先生や主治医の先生が居るととても心強かったりしますね。

中野 やはり、その方の病気も大事です。家族構成ですとか、お父さんもお母さんもこういう

病気になっているとか、色々な情報を持っているかかりつけ医がいると、さらに高度な医療が必要なのか、将来在宅の医療を望まれた場合に家族構成等がしっかり分かっているならば、こういう形が望ましいのではないかという、幅広い選択肢の中の相談が出来るだろうと思います。

塩竈 はい。今日のお話でしたけれども、限られた医療資源の中で、私達が上手に医療機関に関わって行くために、自分の質の高い健康を守るために、まずその自分の健康状態をよく分かって下さる主治医の先生、かかりつけ医を持つことが大事というお話を今日伺いました。さて、先生は中野内科循環器科クリニックの院長先生でいらっしゃいますが、この時期はインフルエンザの患者さんが一週間ごとに来られているというお話を聞きますが。

中野 そうですね。今は非常に増えております。今年の感染症の特徴としては、インフルエンザも増えているんですが、相変わらず感染性胃腸炎も多いんですね。両者が平行して、数多く出ていますので、両方に共通して注意していただきたい。やはり、基本的なところではうがい、手洗い、人混みの中ではマスクをすとか、基本的なことをぜひ励行していただきたいと思います。

塩竈 そして、自分に少し症状が有りそうだなという場合には、早めに病院、かかりつけのお医者さんに行くことが大事ですね。

中野 病気によっては、早ければ早い程治りやすい病気が多いですので、通常と違うなとご本人が思うことは当たっていますので、おかしいなと思われましたら早めに病院にいらしていただくことが良いと思います。

塩竈 そして、現在各病院では面会制限が行われているところがありますが、これも大事ですか。

中野 そうですね。面会に関しては、非常に遠い所からわざわざいらしたり、される所を面会制限をすることは心苦しい場合もあるのですが、

どうしても病弱な患者さんにインフルエンザ等の感染症が移りますと、非常に重篤な事態になる場合もあります。それで、小さいお子さんだとか、何らかの風邪など様の症状がある場合には面会を制限したり、重症の患者さんがいるような病棟では、本当に親族の方が必要な方のみ面会するよう制限をする場合もありますので、事情を分かっただいて面会制限をされてがっかりされるかと思いますが、患者さん達が早く良くなるためであるということをご理解して納得していただきたいと思います。

塩竈 今日のもみなで育てよう地域医療のコーナー、先生には一関市における医師の数ですとか、夜間救急・休日当番医に当たっている先生の平均年齢のお話等も出てきました。こういった限られた医療資源の中で、私達が賢く医療機関を利用する方法を伺ってきました。今日は、一関市医師会副会長、そして中野内科循環器科クリニック院長の、中野淳平先生をお迎えして、お話を伺いました。中野先生ありがとうございました。

中野 どうも、ありがとうございました。